



# 建築分野における木材利用研究センター

〔プロジェクト研究センター設置期間：平成27年10月～平成32年3月(予定)〕

センター長 **番匠谷 薫** (ばんしょうや かおる) / 環境学部 建築デザイン学科・教授

共同研究者 (学内) 杉田 洋(すぎた ひろし) / 環境学部 建築デザイン学科・教授  
川上 善嗣(かわかみ よしつぐ) / 工学部 建築工学科・准教授  
向山 徹(むこうやま とおる) / 工学部 建築工学科・准教授

## センターの概要

### (1) 主たる研究分野

#### 【分野】

工学(建築学)

#### 【キーワード】

建築の木質化、資源循環、木育

### (2) 研究概要

平成22年10月1日、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行を受け、林業の再生や森林の適正な整備、地球温暖化の防止等に貢献することを目的として、公共建築物における木材の利用の促進が始まっています。

この法律は、今までの公共建築物に対する非木造の概念を大きく転換し、耐火建築物とすること等が求められる低層の公共建築物については積極的な木造化を、建具や什器を含めた内装等については木質化することを目的としています。

### (3) 平成28年度の取り組み

本研究センターでは、昨年度、「広島の子供たちが、広島の木で、広島の施設に設置されるベンチ」のデザインコンペを実施しました。具体的には、広島県、広島県教育委員会の後援を受け、一般社団法人 広島県木材組合連合会との共同事業として、小学生の夏休みの課題として木製ベンチのデザインを課題として与えました。

またこの取り組みでは、本学の学生がボランティアで小学生が描いたベンチを製作し、小学生に表彰式の場で披露しました。

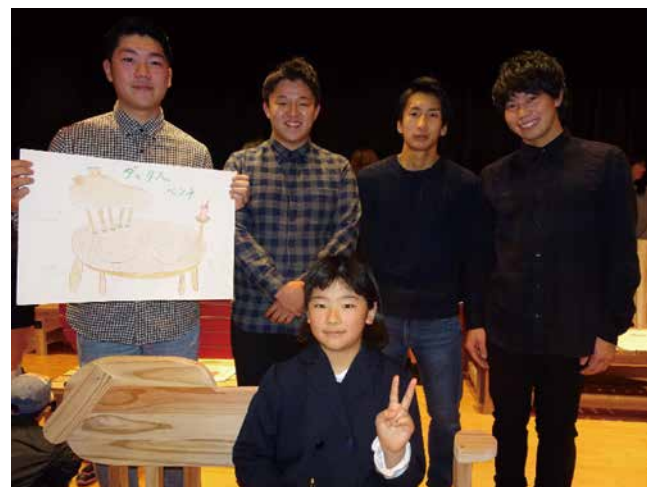
広島の木を中心に、本学の学生と小学生、その家族とが喜びにより繋がりました。

今後とも本取り組みを継続的することにより、喜びの輪を広げ、生徒や学生における県産材活用の原動力にしていきます。

### (4) 取り組みの拡大を目指して

本研究センターでは、(官)広島県農林水産局林業課、(産)一般社団法人 広島県木材組合連合会と常に連携して、平成28年度から、年に1度、シンポジウム「HIROMOKU DESIGN AWARD」を開催しています。

平成28年のシンポジウムでは、ものづくり大学の赤松明学長をお迎えして、「木材加工系技術者育成と家具製造における国産材利用の課題と可能性」と題したご講演をいただいた後、一般社団法人 広島県木材組合連合会の菅野康則会長、本センターの向山徹、川上善嗣を交えパネルディスカッションを開き、今後、本研究センターが進むべき方向を確認いたしました。今後も産学官連携の下、地域社会全体をワクワク感で繋げる情報発信に努めるとともに、本研究センターと同様の取り組みを目指す大学などとの連携を増やし、かつ強めていきたいと考えております。



描いたベンチが実物になる(小学生とボランティア学生)